



〈抜粋〉

項目	概要	進捗状況	問題・課題など	評価
----	----	------	---------	----

自然と共生するまち蒲郡へ向けて

西浦地区の下水道事業を10年以内に完了することを目指す	整備の遅れていた西浦地区の下水道事業は10年以内の完了を目指して進めていく。20年度：順次予算化。	西浦地区整備計画(平成18年度～28年度)に基き整備を行っている。また、平成21年度以降についても順次整備を行っていく。	大変厳しい財政状況の中で、財源の確保が最大の課題。	4
自然と人の触れ合えるまちづくりの推進	三河湾国定公園指定地域では、自然保護に配慮するとともに、海岸環境整備を図る。	中山水道航路から発生した良質な浚渫土砂を活用した干潟・浅場などの造成は終了しており、現在、造成干潟のモニタリングを実施中。また、国は、平成18年度から港湾整備に伴い発生する、粘土・シルト系浚渫土砂を干潟・浅場造成、覆砂などの材料として活用するための検討を実施している。県においては、豊かな三河湾を取り戻すために、「東三河地域水循環再生行動計画」が策定された。	今後も、各関係機関と協力して、豊かな三河湾を取り戻すために「三河湾里海再生プロジェクト」を推進していく。	3
海のまちづくりヨット拠点づくり	アメリカスカップ挑戦艇が蒲郡駅南広場に設置された。海のみち・ヨットのまちを一層アピールしていくために、竹島埠頭周辺(主として西側緑地など)に拠点となる施設を整備し、ヨットの拠点(基地)とする。	バリアフリーボンツーン「マンボウ」を核として、「ひと・人・ヒトヨットレース」や「日中友好パラリンピックセーリング交流」「ジュニア、ファミリー向けヨット体験教室」などを行っている。今後も、これら事業を核として、一層の利用促進を図りながら、ヨット基地化を実現化していく。	港湾管理者である愛知県の理解・協力が必要。	3

明るく元気なまち蒲郡へ向けて

繊維製品のブランド化を積極的に支援	三河木綿、三河織に続く地域ブランドの創造。	テックスビジョンミカワ事業、地場産業需要開拓事業、創造的・事業活動支援事業、癒しとアンチエイジング推進事業、ジャパンブランド育成支援事業など多くの事業で新しい地域ブランドの創造の推進をしている。	産地間の競争も激化しており、なかなか成果が現れてこない。	3
農業振興	柑橘・つまものを中心とした新品種の商品化、農業後継者の育成並びに農業基盤整備の推進。	平成18年度から農業後継者育成事業、平成19年度からは、柑橘新品種商品化支援事業を実施。平成21年度は西大塚地区のほ場整備の基礎調査を開始し、平成23年度の事業認可を目指す予定。	原油価格高騰の影響でハウスみかんの栽培面積が減少している。	3
鉄道高架事業の整備完成	蒲郡駅南および北広場の整備を進め、側道、高架下駐車場、駐輪場を完成させる。	蒲郡駅南前広場は、西側一部を残し完成した。西側の建物移転を平成21年度に、歩道および埋設管の整備は平成22年度に予定。蒲郡北駅広場は、平成21年3月末に完成予定。高架下駐輪場は、今年度までに中央通りまでの2,700㎡、1,220台の置場を整備予定。その後、現在の立体駐輪場の取り壊しを行う。側道整備は、予算に基づき随時整備。	駐輪場や広場の施工を進めているが、広場造成協定締結のための協議に手間取っているため工事などの遅延が懸念される。	3
－11m岸壁3バース竣工を目指し、国・県への積極的要望活動	－11m岸壁3バースの平成24年度竣工を目指し、国や県へ積極的に要望していく。	既存の－10m(9号岸壁)は、船舶の大型化に伴い接岸に不便をきたしている。そのため、県に－11m岸壁を要望。その結果、県では平成21年度に予算要求を行い、早期完成に向けた取り組みを行っている。	早期の3バース(570m)の供用を目指し、引き続き国・県に対し要望していく。	2
オレンジロードの早期無料化	オレンジロードの早期無料化実現に向けて努力する。	昨年度に引き続き、道路公社、県へ豊川市、幸田町と共に23号蒲郡IC供用開始までには無料になるよう要望していく。	無料化に伴い、現県道長沢蒲郡線の市道移管が発生。	4

※45項目すべてのマニフェストの評価は、市ホームページに掲載しています。